

和地ひとみレポート No.119

東大和市の小中一貫教育とは

■『小中連携教育』から『小中一貫教育』に

…東大和市で長く問題となっている児童、生徒の学力。また、学力はもとより、現在は個性を伸ばす、創造性を培うなど、子ども達に自身の可能性に気づかせ、伸ばす教育が求められています。

…東大和市教育委員会でも学校教育振興基本計画を策定し、その目標として学校、家庭、地域、教育委員会が連携して知・徳・体のバランスのとれた生きる力と学力を伸ばすことを目標に設定しています。そして、平成26年度の教育経営方針では学校教育の目標に

- ① **生きる力の育成**＝『確かな学力、豊かな人間性、健康・体力、バランスのとれた力を育む。その子の良さを認め励まし、自己肯定感を養う』
 - ② **学校の活性化**＝『校長は自らが示す学校経営方針を職員、保護者、地域に周知し、校長を中心とした揺るぎない組織作りを進め教育の充実に取り組む』
 - ③ **家庭、地域の教育力の向上支援**＝『教育の成果は学校、家庭、地域それぞれの教育力により生まれる。基本的な生活習慣や家庭での学習習慣を確立できるよう家庭教育を担う保護者への支援を行う。地域の人的資源を積極的に活用するように学校や地域に働きかける』
- の3点を掲げ新年度がスタートしました。

…また、昨年度からは一歩進めた小中の協力体制である小中一貫教育に移行。今年度は一貫教育体制2年目を迎えました。東大和市では平成23年度までは「小中連携教育」として主に各教科の教育推進カリキュラムを策定していましたが、一貫教育という体制にしたことで、今までの課題に対し、より体系的に取り組んでいます。

■東大和市の小中一貫教育とは

…武蔵村山市では、校舎も一体化した「小中一貫校：村山学園」がありますが、東大和市の小中一貫は『施設分離型』と呼ばれるものです。市内の小中学校15校を5つの中学校グループに分け、小学校から中学校の9年間を見通し一貫教育を行っていくというもの。

…初年度である昨年の取り組みには、全国的に問題となっている「中一ギャップ」（中学校に進級した際に被る心理や学問、文化的なギャップと、それによるショック）にも有効な「小中学校教員の連携」「生徒会による中学校説明会」「小学校運動会に中学生が係として参加」などの取り組みが行われました。

…国レベルでも義務教育のあり方について検討が進んでいます。また、小中一貫校ではなく、中高一貫校の方が発育レベルに適しているなどの意見も出ていますが、東大和市でも教育委員会が中心となり、より良い教育を目指し「小中一貫教育」まで一歩前進したことは評価すべきことで、今後に大きな期待をするところです。

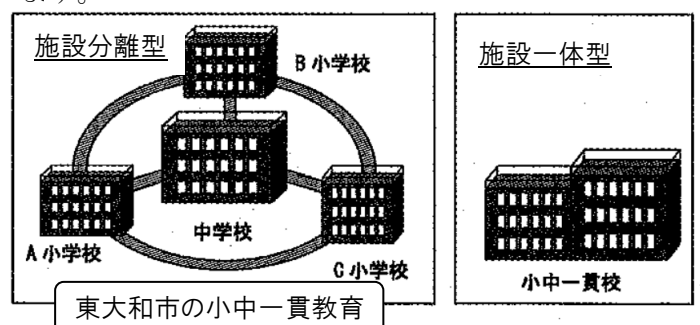
■各学校の特色と

市全体としての教育は

…東大和市では特色ある学校作りに意欲的な学校を補助する「学校特色化事業補助金」という予算を設けています。学校の特色には近隣の自然を活かした教育に力を入れるなどの『地域性』を活かしたものの。また、部活動などを中心とした教科以外の取り組みなどを活かしたものなど様々ありますが、今後は「小中一貫教育」としての中学校グループごとの特色も更に推し進める流れになると思われます。

…一方、東大和市の公立学校のどの学校に入学しても、一定のレベルの教育が受けられる教育環境が整っているという状況も市は担保する必要があると和地ひとみは考えます。東大和市では「学校選択性」を取り入れていませんので、基本的には住んでいる地域の学校に入学します。今回の中学校グループ制を取ることで、小中学校間の協力体制を強め、小中9年間という長い時間の連続性により保護者を中心に地域との連携も取りやすくなるという効果も期待できるので、市全体の教育をつかさどる教育委員会は各グループが切磋琢磨するような支援を行い、各地域の中学校グループが自らのグループに誇りを持つところまで発展させて欲しいです。そして、市全体の教育環境の底上げを行うことができれば、「学校選択性」がなくても、入学する学校に対する不安や問題は解決すると考えます。最終的には教育委員会を中心に、近隣市に誇れる市全体の「東大和市の教育の特色」を出せるような取り組みも並行して行い「教育なら東大和市」と言われるところを目指して欲しいと思います。

…「国づくりは人づくり」といいますが、市においても教育は「まちづくり」の大切な要素です。現在、取り組んでいる一貫教育の効果を見守るとともに、より良いものに発展するように期待し、応援していきたいと思っています。



東大和市の小中一貫教育（『教育委員会だより』より）

1：ねらい

- 小学校から中学校へ進学する際の円滑な接続や小学校と中学校との連携の強化を図ります。
- 小学校から中学校への9年間を見通した児童・生徒の育成方針の共有などにより、学力向上、体力の向上、豊かな心の育成を効果的に行っていきます。
- 小学校から中学校へ進学する際の不適応状況を未然に防止します。

2：期待される効果

- 小学校から中学校へ進学する際、基本となる教育方針が小・中学校で共通であることから、児童の不安が軽減され円滑な移行が期待できます。
- 小・中学校の教員が9年間の教育を見通すことで、指導内容の重なりなどの整理ができます。
- 小・中学校の教員の児童・生徒理解が進み、生活指導にも一貫性が生まれます。
- 小・中学校の教員相互の理解と意識改革により学校経営の活性化や指導力の向上が期待できます。
- 学校・家庭・地域の連携がさらに広がります。

3：今後の課題

- 中学校グループ内で、小中一貫教育の教育目標や9年間で育てたい子どもの姿を共有し、小中一貫教育を推進していきます。
- 定期的な小学校と中学校の教職員連絡会や授業参観の開催など、小学校と中学校のよさや違いを互いに理解し合う取組を進めていきます。
- 小学校と中学校の円滑な接続のために、児童・生徒交流にかかわる取組を進めていきます。
- 保護者や地域の皆さまに、小中一貫教育についてご理解・ご協力をいただくために、学校から随時、情報を発信していきます。

	年度	H23 年度	小中一貫教育開発期間				H29 年度以降	
			H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度		H28 年度
	進行区分	小中連携教育	前期 基盤づくりの期間		中期 実践蓄積の期間		後期 まとめの期間	小中一貫教育の定着
教育委員会	内容	各教科等の小中連携教育推進カリキュラム完成	【H24 年度】 ・小中一貫教育に向けた取組の検討 【H25 年度】 ・学校特色化事業補助金 ・学校教育振興基本計画に小中一貫教育推進を明記 ・学力、体力、健全育成の3委員会による指導法の開発		【H26 年度】 ・中学校グループごとに小中一貫教育経営方針の策定 ・学力、体力、健全育成等、義務教育9年間で身に付けさせる力を整理し提示 ・中学校グループの愛称を検討 ・小中一貫教育中間報告 【H27 年度】 ・中学校グループごとに小中一貫教育の研究・実践発表		【H28 年度】 東大和市の小中一貫教育ガイド作成	【実践】 改善 ・工夫しながらの実践
一中グループ	学校の取組	体験入学	防災学習	地域防災	今後、中学校グループで検討しながら、取組を進めていきます。			
二中グループ		部活動体験	体験授業	教員間交流				
三中グループ		作品交流	作品交流	体力向上				
四中グループ		職員交流	企画交流	学力向上・土曜塾				
五中グループ		授業交流	授業交流	健全育成・読書				

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
 ✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
 〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102